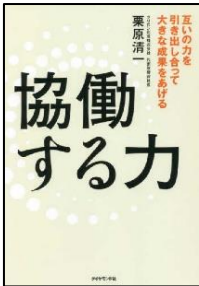


Book Preview

富山高校図書館 2022.11



『 協働する力 』

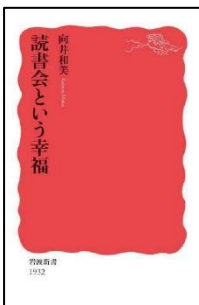
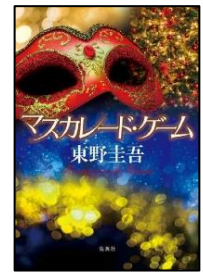
栗原 清一【著】

なぜ、「協働する力」の高い人が集まる組織は強いのか！？個人の優れた専門スキルだけでは成果はあがりません。専門スキルは普通のレベルでも、まわりの人たちとうまくやれる人、すなわち協働する力の高い人が集まる組織は、互いの力を引き出し合い、結果的に大きな成果をあげます。

『 マスカレード・ゲーム 』

東野圭吾【著】

解決の糸口すらつかめない3つの殺人事件。共通点は、その殺害方法と、被害者はみな過去に人を死なせた者であることだった。捜査を進めると、その被害者たちを憎む過去の事件における遺族らが、ホテル・コルテシア東京に宿泊することが判明。なぜ、またしてもこのホテルが舞台なのか——。警部となった新田は複雑な思いを抱えながら、再びホテルマンに扮し、潜入捜査を開始する。ホテル側の“お客様第一”というポリシーを尊重したい新田だが、新たに捜査に加わったのは、犯人逮捕のためなら手段を選ばない切れ者の梓警部だった…。2人はぶつかりながらも、この難事件に挑む



『 岩波新書 読書会という幸福 』

向井 和美【著】

ありふれた日常の中で、読書という行為がどれほどの豊かな時間を与えてくれることか。三十年以上、全員が同じ作品を読んできて語り合う会に途切れることなく参加してきた著者が、その「魂の交流の場」への想いを味わい深い文章で綴る名エッセイ。読書会の作法やさまざまな形式の紹介、潜入ルポ、読書会記録や課題本リストも付す。

『 こちらあみ子 』

今村 夏子【著】

あみ子は、少し風変わりな女の子。優しい父、一緒に登下校をしてくれ兄、書道教室の先生でお腹には赤ちゃんがいる母、憧れの同級生のり君。純粋なあみ子の行動が、周囲の人々を否応なしに変えていく過程を少女の無垢な視線で鮮やかに描き、独自の世界を示した、第26回太宰治賞、第24回三島由紀夫賞受賞の異才のデビュー作。書き下ろし短編「チズさん」を収録。



『 ぼくの短歌ノート 』

穂村 弘【著】

「身も蓋もない歌」「ハイテンションな歌」「賞味期限の歌」。日常をドラマチックに変化させる、短歌の魔法を読み解くエッセイ。「髪の毛がいっぽん口に飛び込んだだけで世界はこんなにも嫌」。些細な事象で、あっという間に変わってしまう自分と世界の繋がり。道に落ちているものの歌、会社の人の歌、デジタルな歌、殺意の歌 etc. 時代の光景を言葉ですくい取り、ドラマチックな日常に誘う三十一文字の魔力。人気歌人の短歌読み解きエッセイ。